

資金収支 計算書

資金の使い道や調達先が分かります

市のお金(キャッシュ)の流れ(フロー)をそれぞれ内容ごとに分けたもので、今年度の資金のやりくりはどうか、自由に使える資金(投資活動に使える資金)はどのくらいあるのかを見るため、3つの活動に区分して、資金収支のバランスを一覧表にしたものです。かかったお金と財源の関係が分かります。キャッシュフロー計算書ともいわれます。

高山市の発展を持続していくために…

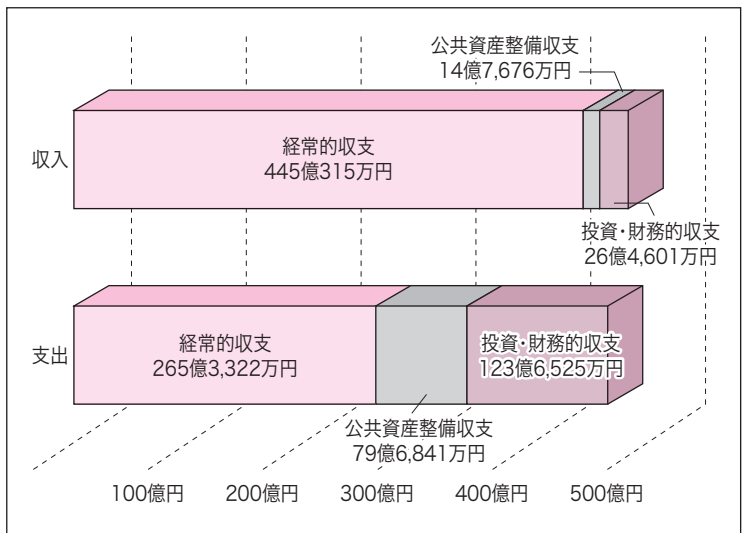
積極的に行革を進めます

少子・高齢化対策、産業の活性化、子どもの教育環境の整備や安全対策など、今後行政需要はますます増えてくるものの地方交付税が削減されるなど、一段と財源の確保が厳しい見通しとなっています。

市では、黒字の健全な行財政運営を行っています。今後も引き続き次代を担う子どもたちに「やさしさと活力あふれるまち」を引き継ぐため、市民のみなさんのご理解をいただき、行政改革を積極的に推進していきます。

問合せ先 **財政課**
☎35-3132

●平成21年度資金収支計算書



●市民1人あたりの資金収支計算書

人口 93,822人 (H22.3.31現在)

単位: (円)

	支出の部	収入の部
経常的収支	282,804	474,638
公共資産整備収支	84,931	15,740
投資・財務的収支	131,795	28,202
総括	支出合計 499,530	収入合計 518,580
	収支差額合計	19,051
	前年度からの繰越金	34,818
	実質収支	53,869

(数値は四捨五入で作成)

**期末歳計現金残高は
約50億5千万円に**
資金収支計算書を読む

○経常的収支の状況

日常の行政サービスを行うための収支で、支出は多い方から人件費、物件費、社会保障給付の順になっています。一方、収入には地方税や地方交付税などを計上しており、収支差額の約18億円は翌年度以降の事業に充てられることとなります。

○公共資産整備収支の状況

支出には公共資産の整備や他会計への繰出金や補助費などのうち建設費に充てられるものを計上しており、大部分が公共資産の整備するための支出となっています。収支差額の約64億9千万円の不足分は、一般財源で賄われたことを意味しています。

○投資・財務的収支の状況

支出には、借金の返済や他会計の借金返済のための繰出金、基金への積立額などを計上しています。

一方、収入には支出の財源となった国県補助金などのほか公共資産の売却収入を計上しています。収支差額は約97億2千万円の不足ですが、一般財源で賄われたこととなります。